

## 【報告】

# 「笑話浪漫サロン」活動報告 — 「新世紀岡崎チャレンジ100」事業における「オカジョ隊」の軌跡—

小野 隆\* 仲田勝美\* 権 洵珠\* 岸本美紀\* 長野八千代\*\*

## 要 旨

地域協働推進センター事業兼大学学部行事「新世紀岡崎チャレンジ100事業」として岡崎市から助成を受けた「笑話浪漫サロン・オカジョ隊」の実施結果を報告するとともに、地域の高齢者や子どもとその保護者に対する活動支援のあり方について考察を行った。各イベント活動体験が、参加した高齢者や子どもとその保護者の感想にどのように反映されるかを把握できるアンケート調査を実施した。その結果、多世代間交流の楽しさを感覚的に理解することができ、学生企画事業への感謝の言葉などにより本事業の意義を確認できたことが推察された。

キーワード：世代間交流、子ども、高齢者、学生企画事業、地域貢献

## I. はじめに

### 1. 「笑話浪漫サロン・オカジョ隊」の結成

本報告は、2016年度、岡崎市市制100周年記念事業「新世紀岡崎チャレンジ100プロジェクト」に採択された、本学子ども教育学部における「笑話（しょうわ）浪漫サロン」活動報告である。本活動の目的として、少子高齢化、人間関係の希薄化といった現代社会の諸課題を岡崎市も抱えており、それら課題解決に向けて市民参加と新たな協働が必要不可欠である。そのために、岡崎市で学ぶ本学学生が、高齢者と子ども達を繋ぐ存在となり、世代をまたぐ楽しい活動を通して、伝統・文化・市民意識の継承、人と人とがふれあうあたたかいまち岡崎の新世紀づくりに寄与することにあつた。

また本学は、保育及び子ども教育分野の専門人材の養成を目的とし、平成25年度に開設され、大学設置理念の軸の一つに「社会貢献」を据えており、地域社会の保育や子育ての様々なニーズに対応できる人材養成のため、地域と連携した教育を行っている<sup>1)</sup>。

本事業は、このような本学の教育の基本理念を学生と教職員の実践により具現化し、地域社会に貢献するための取り組みでもあつた。そこで、その実現のプロジェクトとして、本学に「オカジョ隊」を結成し、取り組むこととなつた。

### 2. 「笑話浪漫サロン」の特徴

#### (1) 地域ニーズに応じた「出張型サロン」である

本事業の特徴の一つに、岡崎市全体を対象に本学大学生が地域に出向く「出張型サロン」であることが挙げられる。

これは、「笑話浪漫サロン」の前身である「岡短昭和浪漫サロン」の活動が岡崎市立根石小学校学区以外でも話題となり、学区福祉委員会等から本学短大生と協働した活動への要望があつたことを背景としている。このような地域ニーズに応え、地域の方々がより参加しやすい様に市内各地で展開する意義を感じ、「出張型サロン」の形態により実施することとなつた。

#### (2) 子ども・高齢者・学生の「多世代間交流」である

この岡崎の地で学ぶ学生が、高齢者と子どもたちをつなぐ存在となり、世代を跨ぐ楽しい活動を通して、伝統、文化、市民意識の継承、人と人とがふれあうあたたかいまち岡崎の新世紀づくりに寄与することである<sup>2)</sup>。

### 3. 当初の計画

当初の計画は、岡崎市内の地域交流施設（地域交流センター等）を拠点に、年6回の世代間交流サロンの開催を予定し、毎回の参加者を地域の高齢者(30

\*岡崎女子大学子ども教育学部 \*\*岡崎女子大学・岡崎女子短期大学地域協働推進センター

名)、子ども(30名)、本学学生(30名)、その他関係者を合わせて、計100名程度とし、学生が高齢者と子どもの間に入り、世代間をつなぐ存在となることであった。そして、本学部の全学生が参加する学生主体の活動とし、学生ならではのアイディアによる、楽しく有益なプログラム活動をエリア毎に展開することであった。このような計画を進める中で、世代間の交流を通して地域の絆を深めるとともに文化や伝統の継承を図り、「女子大生のパワー」で活気と魅力あふれる岡崎づくりに挑戦するという企画を進めて行った。

#### 4. 幅広い地域及び多様な機関との連携を目指す

岡崎市全域を活動の場とし、市内東西南北の地域交流センター、げんき館、岡崎女子大学等の社会資源を拠点とした出張型サロンを展開する。開催エリアの様々な住民組織(学区福祉委員会、民生児童委員会、老人クラブ、子ども会等)及び機関(保育園、幼稚園、小学校等)とネットワークを築き、協働して活動する。また、社会福祉協議会や行政の関連部署のほか、NPO等とも情報提供や協力関係を築くことを目指した。

#### 5. 事業実施以降にもたらされる波及効果について

大学が事業をサポートし、学生が中心で行う活動であるため、地域住民の好意と協力を得やすい面がある。また、活動が先輩から後輩へ引き継がれていくことで、一過性のイベントではなく、継続的な地域貢献活動として定着できる。そして、社会資本としての大学生の存在が浮き彫りになり、地縁型組織や専門組織(社協、NPO等)との連携が進み、若者が地域づくりのパートナーとして評価され、社会的役割を發揮できる。さらに、多様なプログラム活動を通して、地域で多世代が楽しく集う場が広がり、地域に豊かな人間関係と安心感が高まる。家康公をはじめ岡崎の歴史や文化について語り、理解するプログラム活動により、世代間における文化や価値の伝承が進み、岡崎市民としての誇りや市民意識の高揚効果も期待される。このような中期的な効果も視野に入れつつ、実際の活動が展開されて行くこととなった。

#### 6. 「笑話浪漫サロン」の活動状況について

表1に示したように、計6回のサロンが本学(根石学区)での開催も含め、各地域において実施されている。また、事前のサロン開催(プレ実施)2回

を合わせると、計8回の開催に至った。プレ実施の意義は大きく、学生の企画運営を検討する上で、良い知見を得ることが出来た。ここで出来上がった基本コンセプトは、「季節感を大切にした運営」であった。また、そのことを踏まえつつ、3つのプログラムの基本方針が定まった。それは、①つくる②たべる③あそぶ、というものであり、毎回のサロンにおいて具体的な活動内容として取り組んでいくこととなった。

表1 「笑話浪漫サロン」活動状況

	開催日	テーマ	開催場所
1 プレ実施	2015. 12.20	クリスマスを楽しむ冬の交流会	岡崎女子大学
2 プレ実施	2016. 02.27	世代をつなぐ春のひなまつり	長善館
1	2016. 05.15	春の交流会	岡崎市北部地域センター なごみん
2	2016. 07.03	夏の交流会	特別養護老人ホーム 愛厚ホーム岡崎苑
3	2016. 09.10	初秋の交流会 キャンパス・オープンサロン	岡崎女子大学
4	2016. 10.15	秋の交流会 文化芸術のふれあい	岡崎市地域交流センター六ツ美分館 悠紀の里
5	2016. 11.27	郷土の歴史に親しむ交流会	長善館
6	2017. 02.19	冬の交流会	岡崎市西部地域センターやはぎかん

本報告では、2016年度に実施した計6回のサロンについて、その内容および参加者に対するアンケートの集計結果を中心に報告し、多世代間交流事業の①活動内容の体験から高齢者や親子が満足する機会となっているか、②高齢者や親子のサポートをした学生がどう評価されているかの2点について検証したいと考える。

今回の事業は、大学が地域貢献活動の一環として実施する側面が強いこともあり、大学や学生に対して地域住民にどのような感情や思考が生起されるのかといった知見が得られる可能性を持つといえる。そこで本報告では、アンケート調査等の結果を元に、多世代間交流活動体験の効果に対する考察を加え、さらに、今後の「地域協働推進センター」事業のあり方についても考察の範囲を拡大することとした。

## II. 活動内容の概要

実施した各事業の活動内容の概要を以下に示しながら振り返り、それぞれに簡単な考察を加えることとする。

### 1. 春の交流会

2016年5月15日、岡崎市北部地域交流センター「なごみん」にて開催した第1回「笑話浪漫サロン・

オカジョ隊」の事業「春の交流会」では、高齢者 19 名（男性 9 名・女性 10 名、60 代 5 名・70 代 6 名・80 代 2 名・90 代 1 名年齢記載なし 5 名）が参加し事後アンケートに全員が回答した。また、子ども 24 名（男児 10 名・女児 14 名、4 歳未満 10 名・4 歳 6 名・5 歳 2 名・6 歳 2 名・7 歳 2 名・8 歳 2 名）と保護者 14 名が参加し事後アンケートに全員が回答した。

活動内容は、当日配布用プログラム（写真 1、写真 2）の様に、「オカジョ隊」学生発案による春に因んだものであった。



写真 1 第 1 回笑話浪漫サロンのプログラム 1



写真 2 第 1 回笑話浪漫サロンのプログラム 2



写真 3 第 1 回笑話浪漫サロンの受付風景

写真 3 は、受付に岡崎市制 100 周年記念事業であることを示す幟旗を設置し、アピールした様子である。



写真 4 第 1 回笑話浪漫サロンの交流風景

写真 4 は、プログラム(写真 2)にある「草ずもう」大会で優勝した女兒を皆で祝福している様子である。

## 2. 夏の交流会

2016 年 7 月 3 日、特別養護老人ホーム「愛厚ホーム岡崎苑」にて開催した第 2 回「笑話浪漫サロン・オカジョ隊」の事業「夏の交流会」では、高齢者 31 名が参加し 30 名が事後アンケートに回答した。その内訳は（男性 11 名・女性 15 名、60 未満 2 名・60 代 10 名・70 代 8 名・80 代 5 名・90 代 1 名、性別・年齢記載なし 4 名）であった。また、子ども 15 名が参加し 13 名（男児 8 名・女児 5 名、4 歳未満 3 名・4 歳 2 名・6 歳 1 名・7 歳 3 名・8 歳 1 名・9 歳 2 名・11 歳 1 名）の保護者 8 名が事後アンケートに回答した。



写真 5 第 2 回笑話浪漫サロンのプログラム 1

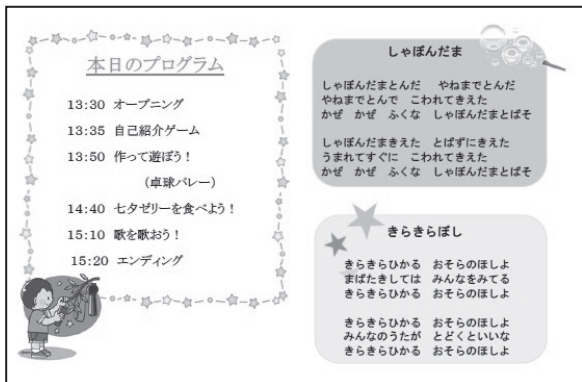


写真6 第2回笑話浪漫サロンのプログラム2



写真7 第2回サロンのテーブル飾り



写真8 第2回サロン終了後の防犯教室の様子

夏の交流会のプログラム(写真5、写真6)では各テーブルに写真7の様な飾りが置かれた。またサロンの終了後に、写真8の様に防犯教室を学生2名の掛け合いで5分間ほど行い、好評を博していた。

### 3. 初秋の交流会：キャンパス・オープンサロン

2016年9月10日、岡崎女子大学にて開催した第3回「笑話浪漫サロン・オカジョ隊」の事業「初秋の交流会」では、高齢者24名が参加し23名が回答した。その内訳は(男性2名・女性18名、60代3名・70代6名・80代12名、性別記載なし3名、年齢記載なし2名)であった。また、子ども19名・保護者12名が参加した。そのうち保護者9名が回答し、その子ども15名の内訳は(男児12名・女児3名、4歳未満4名・4歳2名・5歳1名・6歳2名・7歳2名・8歳4名)であった。



写真9 第3回笑話浪漫サロンのプログラム



写真10 第3回サロンのポッチャの様子



写真11 第3回サロンのパン食い競走の様子

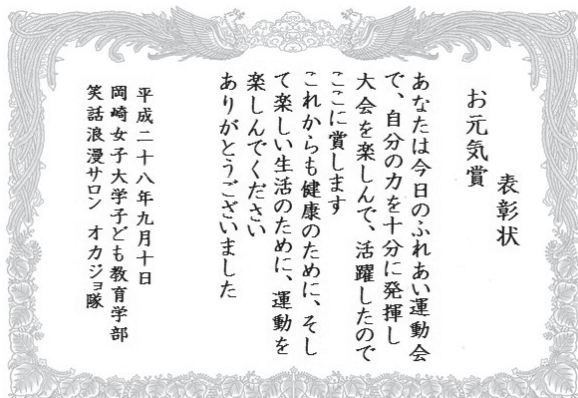


写真12 第3回サロンの表彰状(例)

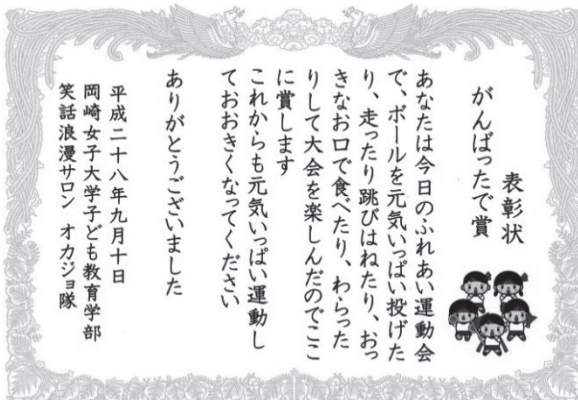


写真13 第4回笑話浪漫サロンのプログラム



写真14 第4回サロンの「マイマイマイ」

「初秋の交流会」のプログラム(写真9)では、写真10と写真11の様な競技を行い、写真12の様な表彰状を授与して盛り上げた。しかし、時期的な問題から学生が忙しく準備不足の感があった。

#### 4. 秋の交流会—文化・芸術のふれあい—

2016年10月15日、岡崎市地域交流センター六ツ美分館「悠紀の里」にて開催した第4回笑話浪漫サロン・オカジョ隊の事業「秋の交流会」では、高齢者36名が参加し26名が事後アンケートに回答した。その内訳は(男性5名・女性18名、60代11名・70代8名・80代4名、性別・年齢記載なし3名)であった。また、子ども5名(男児2名・女児3名)とその保護者5名が参加し2名が事後アンケートに回答した。その内訳は(男児0名・女児2名、9歳1名・11歳1名)であった。

「秋の交流会」のプログラム(写真13)では、本学Music Bandによるオープニングの演奏に続き、その生演奏に合わせて「ようかい体操第一」など、学生のリードでダンスを踊り、写真14の様に全員がフォークダンスを何重もの円になって踊り、大変な盛り上がりとなった。

#### 5. 郷土の歴史に親しむ交流会

2016年11月27日、「長誉館」にて開催した第5回「笑話浪漫サロン・オカジョ隊」の事業「郷土の歴史に親しむ交流会」では、高齢者35名(男性10名・女性25名)が参加し29名が事後アンケートに回答した。その内訳は(男性8名・女性20名、60代3名・70代11名・80代11名・90代1名、性別記載なし1名・年齢記載なし3名)であった。また、子ども5名(男児4名・女児1名)とその保護者2名が参加し1名が事後アンケートに回答した。その子どもの内訳は(男児1名4歳・女児1名6歳)であった。



写真15 第5回笑話浪漫サロンのプログラム1

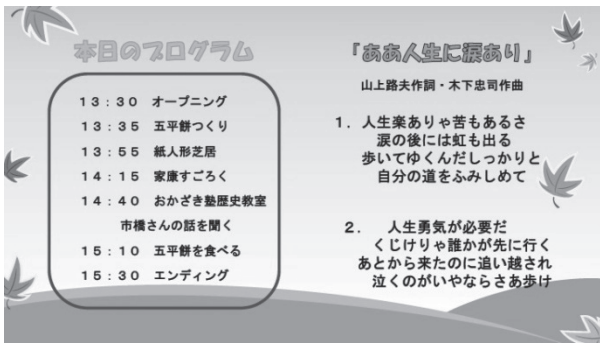


写真 16 第 5 回笑話浪漫サロンのプログラム 2

「郷土の歴史に親しむ交流会」では、岡崎市制 100 周年記念にふさわしい郷土の歴史に親しむ内容のプログラム (写真 15、写真 16) が実施された。

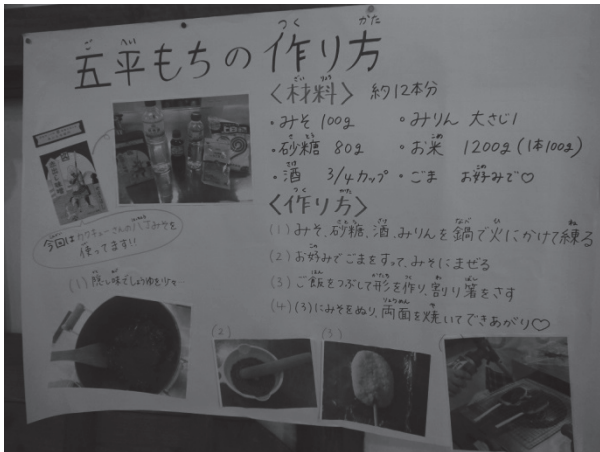


写真 17 「たべる」プログラムの五平もち

「五平もち」の作り方 (写真 17) に則り、参加者一人ひとりが五平餅を作り、各自の名前を割り箸に記入した。今回は「つくる」と「たべる」のプログラムが合わさった企画であった。



写真 18 児童文化研究部による紙人形芝居

本学児童文化研究部「はとぼっぼ」の有志による紙人形芝居が上演された (写真 18)。岡崎が生誕の地である徳川家康の幼名「竹千代」の頃から、武田信玄との戦を踏まえた人生の格言に関する内容であり、参加者も真剣に聞き入り、学生メンバーは最後に拍手喝采を浴びていた。

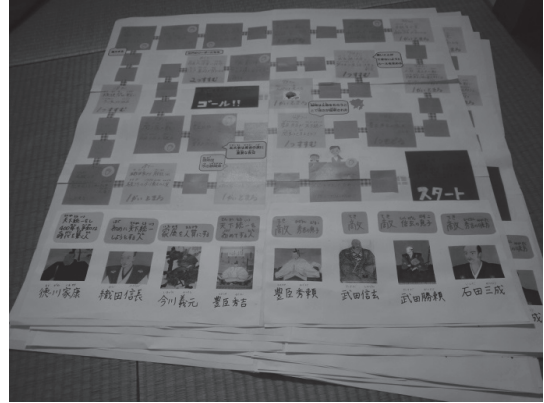


写真 19 「あそぶ」プログラムの「家康すごろく」



写真 20 参加者同士の多世代間交流の様子

「家康すごろく」を大判印刷し「あそぶ」のプログラムを実施した (写真 19、写真 20)。



写真 21 おかざき塾歴史教室の市橋章男氏の講演

会場である長誉館にて「おかざき塾歴史教室」を開いている市橋章男氏を迎え、「家康公誕生のおはなし」をテーマにご講演いただき、郷土の歴史と文化に親しむ会となった(写真 21)。そして最後に焼きたての五平もちを皆で味わい、盛り沢山の内容とすることができたと考える。

## 6. 冬の交流会

2017年2月19日、岡崎市西部地域交流センター「やはぎかん」にて開催した第6回「笑話浪漫サロン・オカジョ隊」の事業「冬の交流会」では、高齢者9名が参加し全員が事後アンケートに回答した。その内訳は(男性5名・女性4名、60未満1名・60代1名・70代5名・80代2名)であった。また、子ども15名(男児7名・女児8名)とその保護者7名が参加し6名が事後アンケートに回答した。その子どもの内訳は(男児4名・女児3名、5歳2名・7歳1名・8歳3名・10歳1名)であった。

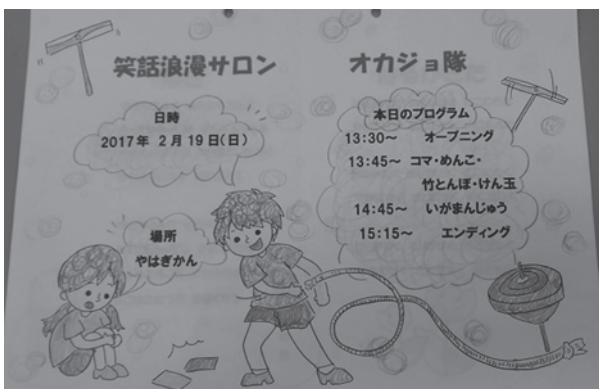


写真 22 第6回笑話浪漫サロンのプログラム1

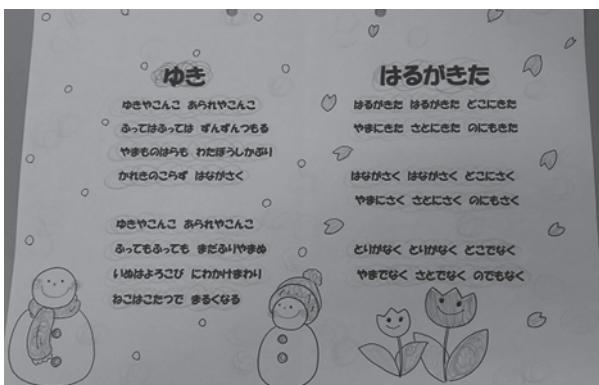


写真 23 第6回笑話浪漫サロンのプログラム2

「冬の交流会」のプログラム(写真 22、写真 23)では、昔遊びの道具を牛乳パックやストローなどを材料とし、手作りしてすぐに皆で遊び競い合うというものであった。



写真 24 オープニングの「ジャンケン列車」

オープニングでは実行委員の学生たちのリーダーシップのもと、アイスブレイキングとして全員で「ジャンケン列車」を行い、参加する皆のリラックスした表情や笑顔を引き出すところから始まった(写真 24)。

会場には、コマ、めんこ、竹とんぼ、けん玉の4つのブースを設置した。屋台方式にて、各自が好きな場所に集まり、制作した遊び道具を試し、改良を加えたり着色したりしながらオリジナルの遊び道具を完成させていた。その後は、お互いの作品を見せ合ったり、遊ぶ技を競い合ったりする光景が見られ、各所で歓声が上がっていた。

## III. 参加者アンケートの集計と結果・考察

### 1. 調査対象

岡崎市内各施設にて実施する地域協働推進センターおよび子ども教育学部事業の「笑話浪漫サロン・オカジョ隊」の活動に参加した高齢者および子どもとその保護者を対象とした。

### 2. 調査方法

調査対象の事業の実施日時は、表1に示した開催日であり、それぞれの活動は概ね13:30~15:30であった。その直後に参加の高齢者と親子に対する2種類のアンケートをそれぞれ実施し回収した。アンケートは無記名とし、高齢者に対しては本人による記入の内容とし、子どもに対しては保護者による記入の内容とした。その内容は、高齢者：①あなたの年代②参加のきっかけ③来場手段④サロンの評価⑤地域交流会参加経験の有無⑥⑤でナシと回答した者の理由⑦今後参加したい交流会の内容⑧生きがい

を感じる⑨自由記述による意見・要望などであり、保護者：①子どもの年齢②サロンの情報入手先③参加のきっかけ④サロンの評価⑤地域交流会参加経験の有無⑥⑤でナシと回答した者の理由⑦今後参加したい交流会の内容⑧自由記述による意見・要望などであった。結果は、MS Excel ファイルに入力し集計・記録した。

### 3. 参加者アンケート結果および考察

#### (1) 高齢者アンケート

6 回のサロンに参加した高齢者に対するアンケート調査の結果を以下に示す。アンケートの回収数は136 部で、参加者総数 154 名に対する回収率は88.3%であった。アンケートに回答した高齢者 136 名の内訳は、男性 45 名・女性 78 名、性別の記載なし 13 名であった。また、60 歳未満 8 名・60 代 33 名・70 代 44 名・80 代 35 名・90 代 3 名、年齢の記載なし 13 名であった。

##### 1) 参加のきっかけ

アンケート回答者数 136 名のうち無回答 3 名があったが、「友人・知人が参加するから」が 38 名と最も多く 28.6%、次いで「大学生や子どもと触れ合うのが楽しみだから」36 名、27.1%、「同世代の人と触れ合うのが楽しみだから」12 名、9.0%、「季節の行事が楽しみだから」5 名、3.8%、「地域の行事に興味があるから」26 名、19.5%、「その他」16 名、12.0%で合計 133 名、100%であった。「その他」として、「チャレンジ 100 プロジェクトで見た。」「チラシでみた。」「地域の福祉委員をやっている。」「権先生の依頼」などのコメントが得られた。

##### 2) 来場手段

アンケート回答者数 136 名のうち無回答 2 名があったが、「徒歩」43 名、32.1%、「自転車」26 名、19.4%、「自家用車」46 名、34.3%、「家族や福祉委員会の送迎」5 名、3.7%、「バス・電車などの交通機関」6 名、4.5%、「その他」8 名、6.0%で合計 134 名、100%であった。このように3分の1の方が徒歩、3分の1の方が自家用車、5分の1の方が自転車であり、これらの手段が大多数を占めた。

##### 3) サロンの評価

表 2 の 5 つの質問に対し、「とても思う」「少し思う」「あまり思わない」「思わない」の 4 件法で選択するものであった。表 2 に示す通り、概ね好意的な回答が得られたが、「全体的に改善が必要だと思った」参加者も「とても思う」と「少し思う」を合わ

せて 55 名となり、反省しなければならない内容の評価となったと考える。ただし、第 5 回では「全体的に改善が必要だと思った」参加者は「とても思う」0 名、「少し思う」5 名、「あまり思わない」7 名、「思わない」12 名となり、第 1 回から第 4 回までとは大幅に改善されたことが伺え、学生たちの成長が感じられるアンケート結果となったと考える。

表 2 第 1-6 回サロンの評価 (高齢者)

サロンの評価	とても思う	少し思う	あまり思わない	思わない
プログラムの内容が良かった	91	33	4	0
学生の対応が良かった	102	25	2	0
また参加したいと思った	101	28	2	1
他の人にも参加を勧めたい	83	38	6	0
全体的に改善が必要だと思った※	17	38	35	29

※「全体的に改善が必要だと思った」のみ第 1-5 回

#### 4) 地域交流会参加経験の有無と無い理由

回答者数 136 名のうち無回答 1 名があったが、「ある」89 名、「ない」46 名とほぼ 2 対 1 の比率であり、2 回以上参加する方が倍の数であった。「ない」と回答した理由として、「交流会の開催を知らなかった」27 名、「一緒にいく人がいないから」6 名、「参加が面倒だから」1 名、「体調が優れないから」0 名、「興味を惹かれないから」1 名、「開催場所が遠いから」1 名、「開催場所まで行く手段がないから」1 名、「その他」5 名で、その他のコメントに「はずかしいから」1 名があった。

#### 5) 今後参加したい交流会の内容

表 3 今後参加したい交流会の内容 (高齢者)

今後参加したい交流会の内容	回答数	割合 (%)
1 同世代の人ともっと関わることができる交流会	52	16.3
2 異世代の人ともっと関われる交流会	68	21.3
3 地域のことを知ることができる交流会	46	14.4
4 体を動かすことができる交流会	51	16.0
5 音楽を楽しめる交流会	49	15.4
6 季節の行事に触れることができる交流会	39	12.2
7 その他	14	4.4
合計	319	100.0

136 名の複数回答可の結果であるが、2 の「異世代の人ともっと関われる交流会」が 68 名となり、7 項目の中で最多であり、今回の様な交流会がニーズに合っていることが伺えた (表 3)。



## 6) 生きがいを感じることに

表4 生きがいを感じることに (高齢者)

生きがいを感じることに	回答数	割合 (%)
1 家族と過ごしているとき	58	18.1
2 友人と過ごしているとき	65	20.2
3 趣味や好きなことを楽しんでいるとき	96	29.9
4 地域の奉仕活動に参加しているとき	48	15.0
5 地域や世代間の交流会に参加しているとき	50	15.6
6 その他	4	1.2
合計	321	100.0

136名の複数回答可の結果であるが、5の「地域や世代間の交流会に参加しているとき」が50名となり、6項目の中で、趣味・友人や家族に次いで4番目となり、今回の様な交流会でも生きがいを感じることに伺えた(表4)。

## 7) 自由記述による意見・要望などに

第1回「学生の方が、自分から話しかけて下さるのがとても良いと思った。」「地域の中に出張しての試み、とても良いと思います。」「男性がとても静かなので男性を動かすようなプログラムもよいのではないか。」「イクメン用にもなる。」「楽しいひと時をありがとうございました。」「学生のマンパワーに感心しました。」「プログラムをスムーズに進行させる力に脱帽です。」「今後の活躍を期待しております。ご苦労様でした。」「若い人と交流したい。」「参加して、とても嬉しく思います。」「生きがいといえる程ではないが、楽しく参加できると良い。」「会場が元気づけて司会の声が聞こえない。」「初めての参加で始めはなじめなかったが、楽しかった。」「ありがとうございました。またよろしく。」「内容について全く知らないで参加したが楽しかった。」「学生さんたちの行き届いた準備に感心!」「スタッフの皆さんありがとうございました。」との概ね好意的な意見や感想とともに期待する声が上がっていた。

第2回「とても楽しかった。」「自己紹介ゲームは何かテーマを出して、それについて話すやり方にしてはどうか。」「プログラムに工夫があり楽しかった。」「これからも楽しい催しをよろしくお願ひします。頑張ってください。」「初めて参加したが楽しかった。」「ピアノがもう少しかなと思った。」「保育者として働いています。学生さんが楽しく一生懸命企画してくれている姿を見て、自分の学生時代を思い出

しました。お年寄りの方との交流会もあるのでですね。素敵な先生になってくださいね。」

第3回「学生さんからハガキをいただいたので来ました。」「皆様がお話上手と遊び上手で喜んでます。」「ご苦労様でした。」「いろいろ企画していただいて大変でしたね。」「毎年愉しみに友人と来ました。」「楽しかった。地域との交流会はとてもいいことだと思う。頑張ってください。」「今日一日楽しかったです。ありがとうございました。」「ボッチャの説明が分かりにくかった。最初からやり方で示したらよかったと思う。」

第4回「みなさん高齢者の方は気持ち的にお若いと思います。いたわっていただくのは良いが高齢者扱いをせず、対等に話して欲しいと思う。」「久しぶりに良い汗をかき楽しかったです。」「下準備がもう少し必要と思われる。」「最初のダンスは見本の人が多い方がよい。対面だと分かり辛い。」「デモンストレーションがイマイチだった。」「音量が小さく、話し方が速い。」「大変楽しむことができました。ありがとうございます。」「地域団体へのPRが不足している。」「男女共もっと参加できるようPRすべきだと思う。」「年間複数回の開催を希望します。」「非常に楽しむことができました。」「子どもの参加がもう少し多いと良いと思った。」

第5回「出会いを楽しみにしています。」「ハガキをいただいたから来ました。」「学生フォーラムで誘われました。」「初めての参加でしたが楽しかったです。」「今までは仕事上ることができなかつたが、自由になったので色々な事に参加してみたい。」「楽しい時間でした。」「Very Goodな企画でした。関係者の皆様のご尽力に感謝!益々のご健勝を祈念いたします。」「学生の皆さんには、多くの体験(キャリア)を積み重ね、今後の人生に活かしていただきたい。」

第6回「今回の中身についてあまりよくわからず、人に薦めることができなかつた。」

## (2) 保護者アンケート

次に、参加した保護者に対するアンケート調査の結果を以下に示す。保護者アンケートの回収数は40部であり、その子ども64名の内訳は、男児35名、女児29名であった。また、年齢別では、4歳未満17名、4歳11名、5歳5名、6歳6名、7歳8名、8歳10名、9歳3名、10歳1名、11歳3名、12歳0名であった。

### 1) サロンの情報入手先

回答者数 40 名のうち、「新聞折り込み」1 名、「小学校からのチラシ」4 名、「幼稚園・保育園からのチラシ」9 名、「地域交流センターのチラシ」3 名、「大学の HP から」2 名、「知人に聞いて」19 名、「その他」3 名であった。なお、保護者 1 名の子ども姉弟が小学校と幼稚園からそれぞれチラシを持ち帰ったため、合計が 41 名となった。

### 2) 参加のきっかけ

回答者数 40 名のうち、「子どもが興味を持った」6 名、「居住地だった」14 名、「世代間の交流に興味があった」0 名、「大学生が企画したものだから」6 名、「企画内容などを見て興味をもった」5 名、「その他」9 名であったが、「その他」として、「知人・友人に誘われた。」とのコメントが得られた。参加のきっかけとして、今回の企画で意図した様な世代間交流に対する興味があったという回答者が一人もいなかったことは特筆できる。

### 3) サロンの評価

表 5 は、高齢者のアンケートと同じ 5 つの質問に対し、「とても思う」「少し思う」「あまり思わない」「思わない」の 4 件法で選択するものであった。表 5 に示す通り、概ね好意的な回答が得られた。ただし、全体的に改善が必要と感じた参加者も「とても思う」が 34 名中 2 名、「少し思う」が 17 名と 2 つを合わせて半数以上となり、反省させられる内容の評価となったと考える。

表 5 第 1-6 回サロンの評価 (保護者)

サロンの評価	とても思う	少し思う	あまり思わない	思わない
プログラムの内容がよかった	27	12	0	0
学生の対応が良かった	28	11	0	0
また参加したいと思った	23	14	3	0
他の人にも参加を薦めたい	14	22	2	2
全体的に改善が必要と感じた※	2	17	10	5

※「全体的に改善が必要と感じた」のみ第 1-5 回

### 4) 地域交流会参加経験の有無と無い理由

回答者数 40 名のうち、「ある」15 名、「ない」25 名であり、「ない」と回答した理由として、「交流会の開催を知らなかった」15 名、「一緒にいく人がいないから」4 名、「参加が面倒だから」2 名、「予定が合わないから」4 名、「興味を惹かれないから」3 名、

「開催場所が遠いから」2 名、「開催場所まで行く手段がないから」1 名、「その他」1 名であった。

### 5) 今後参加したい交流会の内容

表 6 今後参加したい交流会の内容 (保護者)

今後参加したい交流会の内容	回答数	割合 (%)
1 同世代の子どもや親にもっと関わることができる交流会	25	23.6
2 異世代の人ともっと関われる交流会	14	13.2
3 地域のことを知ることができる交流会	9	8.5
4 体を動かすことができる交流会	18	17.0
5 音楽を楽しめる交流会	18	17.0
6 季節の行事に触れることができる交流会	22	20.8
7 その他	0	0.0
合計	106	100.0

40 名の複数回答可の結果であるが、2 の「異世代の人ともっと関われる交流会」が 14 名となり、7 項目の中で「その他」0 名を除けば「地域のことを知ることができる交流会」9 名に次いで 2 番目に少ないが、3 分の 1 以上の参加者が回答したことから、今回の様な交流会がニーズの中の一つということが伺えた (表 6)。

### 6) 自由記述による意見・要望など

第 1 回「大学近郊だけでなく、岡崎市全体に知られていくことは良いと思う。」「学生のみなさんが、一生懸命考えてくれた会だということが伝わる。」「チラシの内容ではプログラム制だということが分かりづらかったので、見直しをすともっと分かりやすくなると思う。」「ありがとうございました。楽しかったです。」「大変よかったです。」「ありがとうございました。楽しかったです。」「窓が開いていて、その前にパイプ椅子が並べてあったのは怖かった。子どもの転落防止・安全を第一に考えて欲しい。」「あいさつゲームで学生さんと当たったときは、学生側から子どもに声かけをしてほしい。」「小さい子には名前は読めないので名札を見せて読ませようとしなくていい。」「せっかくの異世代交流なので制作時などは、ペアになってもいいと思う。」「子ども達も自分からははずかしくて積極的に関われないので、初めからペアになっていると良い。」「子どもよりも祖父母の方が頼りにされている感じがより強くなっていいと思いました。」との概ね好意的な意見や感想とともに、保護者らしい子どもの安全安心に対する配慮を期待する声が上がっていた。

第2回「とても楽しく遊べて、他の会も試してみたいと思った。」「前回は参加したが、今回のほうがスムーズになっていたと思う。」「2回目なのでチラシを見て内容が分かったが、初めて見る人には全体的な内容が分かりにくいと思う。」「学生さんが一生懸命考えたプログラムだということがよく伝わり、親子で楽しめた。」「初めての参加だったが楽しめた。」「学生の頑張り、工夫に感心しました。」

第3回「流れの説明など、もう少し早くわかりやすいと良いと思う。」「ゲームの説明が最初は口頭だけで意味不明だった。」「小さい子どもは基本走るのが好きなので走れるゲームもあると良かった。」「段取りが悪い。」「事前に進行の練習が必要である。」「待ち時間が長い。」「子どもがガッツリ走れる運動が良い。」「老人ホームと幼稚園児の交流など、完全に親と離れた状態でのイベントのほうが、どちらも寄り添うのかなと思った。」「ボッチャの説明・進行がスムーズでなかった。」「体育館でのイベントで、すごく魅力的で期待していたが、もう少し進行も含め、全体的に内容の詰まったものがよい。」

第4回「なし」

第5回「学生の皆さん、とても親切にしてくださいありがとうございました。」

第6回「ありがとうございました。」「子どもがやりやすい内容でした。」「あきずに最後までできてよかった。」



写真24 サロン終了後に指で6を示す学生たち

#### IV. おわりに

本報告は、地域協働推進センター事業兼大学学部行事「新世紀岡崎チャレンジ100事業」として岡崎市から助成を受けた「笑話浪漫サロン・オカジョ隊」の実施結果を報告するとともに、地域の高齢者と子どもおよびその保護者に対する活動支援のあり方について考察を行った。対象を高齢者、幼児・小学生とその保護者とし、各イベント活動体験が、それに参加した高齢者や親子の感想にどのように反映されるかを把握できるアンケート調査を実施した。その

結果、多世代間交流の楽しさを感覚的に理解することができ、学生企画事業への感謝の念とともに事業の意義を確認できたことが推察された。

今後、岡崎女子大学・岡崎女子短期大学の地域協働推進センターが子ども教育学部とともに、本学の「人材育成」と「地域貢献」を社会的使命とする精神の元、「両大学の知的・人的・物的資源を地域とつなぎ、地域の課題解決に応えるための教育・研究・地域活動を全学的に推進する」<sup>1)</sup>ことのできる地域の拠点となるように可能な限りその役割を果たしていくべきであると考え。その意味で、「笑話浪漫サロン・オカジョ隊」が今後も継続的に果たす役割は大きいであろう。

「笑話浪漫サロン・オカジョ隊」の事業は、世代間交流が希薄化した今日の地域において、伝統、文化、市民意識の継承、人と人とが触れ合う温かいまちづくりという様々なつながりを実現していく有意義な取り組みである。また、大学の地域貢献という地域において重要な課題を具体的に実現するものでもある。すなわち、「笑話浪漫サロン・オカジョ隊」は、多様な人と人とのつながりをはじめ、地域のつながり、そして大学の専門機能を地域に還元する営みである。その際、サロンを実施する学生は、運営を通し、地域の人たちに育てられており、保育者・教育者としての学びにつながる機会を得ている。今後も大学として、様々なつながりを通して共に育ちあうことのできる地域づくりに寄与したいと考える。

本論文の執筆分担は、小野がⅠの一部分・Ⅱの一部分・Ⅲのデータ集計・Ⅳの一部分、仲田がⅠの一部分・Ⅳの一部分、権が要旨及び全体の監修、岸本がⅡの一部分、長野が記録及び基礎データ集計を担当した。

#### 引用・参考文献

- 1) 小宮富子, 「創刊にあたって」, 地域協働研究, 1, 2015
- 2) 糸井和佳・亀井智子・田高悦子・梶井文子・山本由子・廣瀬清人・菊田文夫, 「地域における高齢者と子どもの世代間交流プログラム関する効果的な介入と効果—文献レビュー—」, 日本地域看護学会誌, 15, No.1, 2012

#### 謝辞

今回の報告に際し、本事業の推進にご協力頂いた岡崎市内の各機関および本事業に参加された皆様に、心より深く感謝致します。